

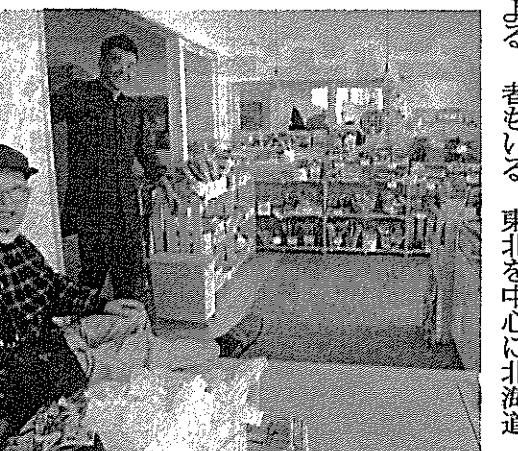
サービス付き住宅 多様化

高齢者向けの住宅が急増し、中身も多様になっている。その一方で虐待などの問題も起り、規制も厳しくなっている。老後の居場所はあるのか?急速に変わりつつある高齢者向け施設の最前線を報告する。

(編集委員 斎藤雄介)

老後の 住まい

上



サービス内容 選ぶ際に確認

NPO法人「シニアライフ情報センター」(東京)代表理事の池田敏史子さんは、サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームを選ぶ際、「住み替えの目的をはっきりさせた上で、自分が求めるサービスが提供されるか質問して」と言う。具体的な質問例とアドバイスを挙げてもらった。

■「病院に付き添ってくれるか」

「夜間は何人職員がいるのか」

体調を崩すのは夜間が多い。夜間の体制は重要なチェックポイント。

■「ホームを退去しなければいけないケースはあるか」

「重度の認知症になっても住み続けられるのか」

重度でも対応できる、家族の付き添いが必要、退去を促すなど、ホームの方針を確認する。

■「外出は自由か、要介護者でも外出の機会は頻繁にあるのか」

「携帯電話は持ち込めるか、公衆電話など外部との通信手段はあるのか」

外出の機会がほとんどない、通信手段がないところは避けたほうがよい。

■「ケアマネジャーは自由に選べるか」

ケアマネを外部に頼むホームでは、自由に選べることになっている。特定のケアマネ事業所しか認めないとところは、「囲い込み」に当たり、おすすめできない。

■「地域の人は出入りしているか」

多くの目が入ることで、虐待の抑止力になる。

■「体験入居はできるか」

体験入居は有力な情報を得る良い機会。必ずしてほしい。食事の盛りつけや彩りなど、おいしく食べてもらおうとする姿勢はほかのサービスにも通じる。入居者の表情がよくわかるのも食事時。

介護サービスは入居者が介護保険を使って外部の事業者に依頼する。一部の有料老人ホームのような高額の入居一時金は必要ないので、利用しやすい。

青森市のNPO法人「ラ・シリテ」が運営するサービス付き高齢者向け住宅は、所得の低い人も入居できる価格帯が特色。要介護者向けの「シニアパンション」、自立、要支援の人も入居できる「シルバーピュア」がある。

家賃は、「シニアパンション」

の平均的な例で月2万7500円(入居金なし)、介護保険外の緊急時対応を行うためのケアサ

ポート費が月6000円など。「食費、光熱費を入れて月8

万円。ケアプランによる

サービス付き高齢者向け住宅。パリアフリーの建物で、安否確認サービスと、生活相談サービスが最低限、提供される。国の建設費補助があり、賃貸住宅なので建設業者らも土地活用として参入やすいことも急増した理由。

サービス付き高齢者向け住宅で定められた住宅。パリアフリーの建物で、安否確認サービスと、生活相談サービスが最低限、提供される。国の建設費補助があり、賃貸住宅なので建設業者らも土地活用として参入やすいことも急増した理由。

割安な家賃 ◆ 祭りで地域と交流

今年5月、東京都足立区にオープンした「銀木犀」。西新井大師は、駄菓子屋を併設している。午後3時を過ぎると、小さな店内は小学生でいっぱいになつた。子どもたちへお釣りを渡すのは、「店長」と呼ばれる入居者の男性(84)。

銀木犀では、首都圏4か所で

サービス付き高齢者向け住宅を

展開するが、地域の人を招いたお祭りなどを積極的に行う。「地

域との交流で入居者に役割がで

きればいい。外部の人が入れば虐待防止にもつながる」。運営

する「シルバーワッズ」社の下

河原忠道社長は話す。「銀木犀」の入居費用は月額13万9800円か

や四国に展開し、計83か所まで増えた。業界大手だ。

ユニークな取り組みをしてい

もってきた。

サービス付き高齢者向け住宅

が身近な存在になってきた一方

で課題も出てきた。たとえば特

定の事業者の介護サービスだけ

を使わせる「囲い込み」なども

指摘されている。

厚生労働省は7月から、食事のついたサービス付き高齢者向け住宅も有料老人ホームと見なされ、指導対象となることを明確化。介護サービスを特定の事業者に限定、誘導しないよう求めた。また、高齢者虐待防止法に基づく苦情処理体制の整備などを求めた。

サービス付き高齢者向け住宅の運営は、介護サービスを特定の事業者に限定、誘導しないよう求めた。また、高齢者虐待防止法に基づく苦情処理体制の整備などを求めた。

体験入居の実施、介護サービ

ス内容や費用などの「重要事項

説明書」の交付も盛り込まれた。増える高齢者向け住宅。私たちはその良しあしを見分ける目を持つ必要がある。